

ふちんとす

くちづさむ我がうたふるびわれやせぬかくて我世の暮れ果ん哉

○  
八重子

秋のあめ細うふる夜をともなくしづかにふもふ  
あめつちの歌

伊藤芳江

額ふして祈りさゝぐるわさわけや靈の香はなつし  
らぎくのはな

金丸錦川

あしの花白うふけたる霜の夜を名しらぬ鳥のきた  
に鳴きすぐ

志雅子

許しませこの身はやせてさまよひの塵のちまたに  
うたもだになき

○○○○

フレーベル會俳句端書集

一、課題 當季雜吟一人十句以下

一、締切 每月二十五日限り

一、披露 翌々月本誌上

一、賞品 三光には繪はがきを呈す

一、撰者 當分本會の撰とす

一、投稿 本誌 購讀者は何人に対しても投吟する事

を得用紙は繪葉書に限り（眞筆刷物隨意）住所氏名雅號を明記し必らず左の  
名宛にて送らるべし

埼玉縣入間郡芳野村

フレーベル會俳句掛

鹽野奇零宛

## 第十八回俳句端書集

雪かくや鎮寺の庭を二三人  
薄雪や小松が下の藪柑子  
枯蘆や苔漏る、灯の消えかゝる  
初霜や庭にこぼれし梅もどき  
炬燵して茶棚の位置の變りけり  
示候の跡の跡や冬の月  
池ばかり丸ふ残りて雪の原  
垣結ぶ袖にかかるや初時雨  
木に金のなつた咄や恵比壽講  
石女の眼にも涙や唐辛子  
遠響り人影寒き霜夜かな  
身に沁みる水車の音や冬の月  
雪の不二雲紫に旭の昇る  
初雪や花の散るより美くしき  
朝寒や傳のならぶ河岸通り  
笛啼て學寮の小窓暮れんとす  
笛啼て暮れなん戯のばさとして  
笛揚ぐる千石舟や冬の月  
藪寺の笛啼止んで暮れにけり  
越山の雲に詩を賦す冬至かな  
冬の月千鳥聞くべき演の宿  
冬の夜の吟聲酒氣を帶びてけり

校 午 川	同 同 同 同 同	仙 壇 一	同 同 同 同 同	神 戸 學	本 郷 ゆかり子	洋 瓢 外
武 藏 麾 同	浦 和 松 同 同 同	東 京 一	長 野 曉 同 同 同			
雪 濡 露 聲 霞						

露の雲雨となりたる冬至かな  
飢に啼く小犬の聲や冬の夜  
笛啼や暮を撞出す山の鐘  
茶の花や平安の道靜かなる  
笛啼や人なく暮る、國子茶屋  
茶の花や平等院の庭古りて  
夜半の冬釜松風の聲聞かん  
里内裏霜美しくおかれけり  
どう見ても武骨に見ゆる年男  
初雪やつらせて見る盆の上  
水やせて土橋の高し枯柳  
季候に犬の吠え行く月口かな  
早梅や佗しき軒に日のあたる  
山茶花や取ちらしたる鉛仕事  
初霜や石にのせたる古草履  
瘦馬のつく息白き寒さかな  
金屏の内は春なり除夜の梅  
不二にかかる雲に暮行く冬至かな  
松風に千鳥の聲や冬の月  
茶の花や平家の跡の物淋し  
し

川 越 同	同 同 同 同 同	月 天 子 同	枯 仙 同	備 中 同	近 江 古 同	大 坂 きよ女 同	榜 木 たざ子 同	尾 張 勝 荻 の 舎	東 京 神奈川 同	武 藏 静岡 同	信 州 耕 樂 同	開 背 喜 良 同	入 村 久 同	水 山 杉 同	
天 光 三	地 貸 た 灯 の 遠 消 行 く 枯 野 か な	百 度 踏 む 社 の 森 や 木 兎 の 聲	度 踏 む 地 の 貸 た 灯 の 遠 消 行 く 枯 野 か な	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	
人 山															

人、歌讀む人は見へず大根引 東京ゆかり子

追加

鹽野奇零

益良雄も太刀解きて屠蘇の膳  
敵味方先づ打ちとて御慶かな  
凱旋に國威の高し初日影

### 漁夫

雨峯生

夕日くまなく彩りし  
影流しゆく鳥川  
ながけながかけに描き

毛武の峰の濃紫  
岸なたどれる漁夫一人  
俚歌にわか身をまかせつゝ

浮世の塵をしばしだに

### 雪の夕べ

胡山山人

清めんものと久方の  
天つ御空を立ち出で、  
雪は下界にくだり來ぬ。

浮世の波はしづかにて

細き煙は釣り糸の

家路に向ふ思ひこそ

浮世の波はしづかにて

細き煙は釣り糸の

苔子生えゆきて限りなき  
洞口にかへるそれなるか  
苔子生えゆきて限りなき  
苔實を結ぶ道理を

座のちまたもいとひなく

清き心を白妙の

色に見せつゝ野邊山へ

無邊天地の擴かりん  
深き悪なことほかん  
四邊はやゝに冷雲の  
しづかに岸邊さすりゆき

通ふ運命と思出て  
我家わびしき獨住居  
たゞ幸こそ天地の  
憩ふ幸こそ天地の

あめつち  
今日はくれぬくれはてね  
四邊はやゝに冷雲の  
しづかに岸邊さすりゆき

音も淋しくなりぬれど  
あがきもはやくなりゆきて

観喜の光眉にみゆ  
誇ひきたりて川水は

ささはみ身はすぐ／＼と  
うたこ  
ささはみ身はすぐ／＼と  
うたこ

礙りなき身はすぐ／＼と  
誇ひきたりて川水は

音も淋しくなりぬれど  
あがきもはやくなりゆきて

観喜の光眉にみゆ  
誇ひきたりて川水は  
ささはみ身はすぐ／＼と  
うたこ  
ささはみ身はすぐ／＼と  
うたこ